

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
ボランティアセンターだより編集委員会
〒560 豊中市中塚塚2-28-7
☎(848)1000



ボランティアセンターだより

震災から一年・・・続く支援活動

引越しのお手伝いから仮設住宅への在宅支援へ



お餅つきのお手伝い(豊南町仮設住宅で)

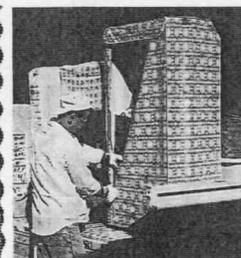


一月十七日未明に発生した「阪神・淡路大震災」から一年・・・豊中は、大阪府下最大の被災地となり、社会福祉協議会も震災支援ボランティアセンターを開設計、延べ五千二百名のボ

ランテニアの方々には震災支援ボランティアとして活動いただきました。あれから一年、まだ市内ではブルーシートがかかっていたままの家屋や全壊で解体され空地も多く見られます。この間、五月から平常時のボランティアセンターに統合し、引越しのお手伝いや仮設住宅への在宅支援活動、仮設住宅自治会のイベントのお手伝いなど支援活動を続けています。

支援活動の記録

- 1月17日 阪神淡路大震災発生
- 1月25日 震災支援ボランティアセンター開設決定
- 27日 震災支援ボランティアセンター開設
- 30日 障害者世帯への安否確認電話 (~31日)
- 31日 避難所実態調査を実施(~2月1日)
- 11日 救護物資避難所への配布 (~12日)
- 23日 電話による「高齢者の状況調査」実施(~24日)
- 3月5日 手作り介護用品・スラックスを避難所へ配布
救護物資無料配布バック配付交付(~17日)
- 18日 救護物資無料パザー(~19日)
- 4月16日 避難所の統合に伴う引越しのお手伝い(~27日)
- 5月2日 被災者高齢者スチグスイツアー(沖繩ツアー)受付
- 9日 全豊中震災支援ボランティアに対する情報提供
*震災支援ボランティアセンターを通常のボランティアセンターに統合支援活動展開
避難所から在宅支援へ
- 15日 沖繩ツアー(~18日)
- 22日 沖繩ツアー(~25日)
- 6月4日 避難所閉鎖
- 8月22日 震災支援ボランティア活動報告会



引越しのお手伝い



仮設住宅へピッコソングがプレゼント

また、仮設・応急住宅のある校区福祉委員会では、住民と共にふれあいの集いを開催するなど地域交流が進んでいます。住み慣れた地域から、知らぬ土地の仮設へ転居されることにより地域の繋がりが通院、買物等様々な生活課題が起こっています。福祉委員会との連携で支援活動を続けていきます。

中級ボランティア講座

キーワードは小地域

二月十五日から五回講座「ボランティアのための中級セミナー」が開催されました。今回の講座は、地域福祉の動向をはじめ、当事者から見たボランティア活動の教訓、小地域福祉ネットワーク、福祉公社の動向など多彩です。参加者も同名をこえ、関心の高さが見えます。

震災支援活動について報告



今後、校区単位の在宅支援ボランティア活動が広がっていく中でボランティアセンターと校区福祉委員会関係機関の連携が必要になります。小地域での取り組みがキーワードと言えます。

立花老人デイサービスセンターから、ボランティアセンターへ入浴介助のお手伝いをお願いしています。早い、早速、登録グループ「ステッキ」の二週間の施設ボランティア活動が始まりました。

「ボランティアと施設の間に、入浴後、洗う人が重要。その「ステッキ」の様に社協がコーディネートしてグループ対応していると良い点はいっぱいあるんじゃないか」と。施設ではじめてのボランティア・もつと地域施設として私達の勉強の場にしていただけたらと願っている。これからもいろいろな機会に積極的に勉強させていきたいと思います。(ステッキ 斉藤杏子)

保険の種類	ボランティア保険	有償活動保険	子供保険	行事保険
加入対象	ボランティア活動に参加する方	府下・地域を対象として有償活動を行なっている団体	地域で活動している子供を中心としたグループ	ボランティア保険に加入できる人やそのグループが主催する行事
保険期間	毎年4月から翌年3月31日までの1年間 (途中加入の場合、毎月1日、10日、20日から発効)			
料金	Aプラン 300円 Bプラン 500円	Aプラン 1,000円 Bプラン 1,500円	200円	宿泊なし1人30円 宿泊あり 230円より

ボランティア保険の概要



第3回 豊中ボランティアフェスティバル

ひろがるボランティアの輪
参加者900人

震災から一年・・・がんばろう豊中

2月25日(日)市立ローズ文化ホールで、第3回豊中ボランティアフェスティバルが「震災から一年・・・がんばろう豊中」をテーマに開催されました。

今年は、震災から一年間の震災支援の取り組みや震災ボランティア活動の中から生まれた歌や絵本の紹介、また震災ボランティア川柳を市民から一般公募する等震災支援を風化させない内容を盛り込んだものとなりました。



元気いっぱい野田小学校の合奏



好評だった手作り介護用品ファッションショー



福祉協力校体験作文発表



会場全体で手話コース

福祉協力校体験作文

子どもの目から見た、感じた福祉

たくさん けいけんして
刀根山小学校 二年一組
田中 佑佳子
わたしの、クラスは、歌が好きな、練習先
生と、わたしたちは、一年生の時から
ずっと二年間同じ、クラスでした
でも、二年生になる間に、何人かの、友だち
がでんこうしていききました
わたしは、けいけんして、新しい子がいるから
少しさみしいけれど、もう新しい子がいるから
だいじょうぶです
わたしは、いろいろなところに行き、歌ってきま
した
とくに心にこたったのは、けいけんするの日にみ
んなで、おじいちゃんやおばあちゃんに手紙
を十枚ずつ書きました
手紙を書く時は、とてもいいな字で書き
ながら、どんなおじいちゃんや、おばあちゃん
にわたるかなと思いつきながら、手紙を書きま
した
わたしは、「へんじがくるかな」と、
思っていたら、本当に、へんじが、たくさん
みんなにきました
わたしは、こなかったけど、わたしのグル
ープのさいとうゆう子ちゃんにわたしたの
わたしの、グループは、みんなでおへん
じをくれたみやまきさんと、手紙をプログラム
と、いっしょに、わたしました
それから四週間たつて、いよいよ学習はつびよ
う会の日です。一、二時間目は、
べん強して、十時半ごろに休むかんのうら
に行つて、わたしたちの、まへのクラスの
おわるのを、まっつからしずかにかいたんを
のぼつてステージに上がりました

それから、歌を歌いはじめました。
「パンパン」です。「夕やけが見えるから」と「歌え
たいな」です。歌い終わってもまだおそろいで
いました。それは、「みやまきさん、おじいちゃん
が、きてくださっているかな。」と思つ
たからです。ひなだんに上がつてからは、こ
れまでれんじゅうをしてきた通りに、楽し
く歌えたいと思います。それは、一年生から六
年生までの人が、とてもはずかしく聞いて
くれたこと、大きな手をしてくれてか
たです。教室にかえて、しばらくすると、
先生が「みやまきさんのおじいちゃんに手紙を
書いた人たち、ちよつといらつしやい。」と
いって、校長室につれていって、くれました
なんだらうーどうしたんだらうーと思つて、
校長室に入ると、おじいちゃんとおばあちゃん
が、すわっています
そのおじいちゃんみやまきさんでした
元気なおじいちゃんです。その時わたしは、
びょう気で、入っていました。おじいちゃん
のことを、ふつと思つていました。一日も早く
元気になってほしいので、みやまきさんのおじ
いちゃんに元気をもらつて帰ろうと思つて
おじいちゃんたちが、帰る時みやまきさん
送りをしして、その時、あく手をした子がと
てもあたたく、かまじました
この手を入れているおじいちゃんにあく
手した。元気がいって、くれるぞと思つて
した。こんなけいけんをたいせつにしてい
こうと思つています。

ボランティア
垂而 協和 調 敬正
(平成八年一月末)
市社協ボランティア相談の
内容は年々増加しています
特に、子育て支援のボラ
ンティア依頼は今年度大変
増えています

お知らせ

全国ボランティア
フェスティバル
平成八年九月二十一日
(土)、二十二日(日)の二日
間、大阪城ホールにて全国
ボランティアフェスティバ
ルが開催されます。
詳細は、またご連絡します
乞う、ご期待

恒編集後記

震災から一年が過ぎ、よ
うやく落ち着いたかに見え
る街角ですが、老夫婦がひ
つそりと商つていた履物屋
さんが鉄筋三階建ての工事
中であつたり、市民病院の
近くの床屋さんが更地にな
つていたり、こんなところ
に駐車場が・・・と一年
前の風景を思い起こし、見
知らぬ町にきたような錯覚
に心の痛みを感じるのは私
ひとりでしょうか。
もうすぐ、二度目の春が
巡ってきます。一日も早く
震災前の状態に、心も体も
戻りたいと欲しています。
この号より新しく二人の
方が編集委員に加わってい
ただきました。ご期待下さ
い。(T・N・)



川柳コーナー
ボランティアフェスティバルに際し、「ボランティア川柳」を市民の方
々より募集したところ50句の川柳を応募いただきました。ボランティ
アフェスティバル実行委員会、選考させていただいた結果、次の十一区が
入選されました。

- 被災者と 共に歩んだ
年でした (浜口 弘幸)
元氣な笑顔に つかれも忘れ (岡田 昭弘)
震ボラも 一年経てば (小谷 憲治)
ただの人 (児玉 秀實)
鬼嫁が 菩薩に見えた (中谷 珠恵)
募金して 風邪ももらった (小谷 憲治)
息子見直す ボランティア (江口 節信)
テレビにも 映らぬ隅に (平野 信子)
握り飯 ボランティア (平野 信子)
今日もデートに (高橋 達雄)
ボランティアに 背負われ老女 (北園 昭治)
グータラの 息子見直す (江口 節信)
若きらの 行動頼もし (中西 明子)
参加して知る 陰の汗 (小村 陸奥美)



ボランティアレポーター訪問記
小雪が散らつく二月六日、交流し合つて理想的である
緑地公園近く吹田市江坂に
と考えていましたが、実際
位置する「特別養護老人ホ
ームエバグリーン」と
「児童養護施設松柏学園」
(同じビルの中にある複合
施設)を見学訪問しました
昨年、五月に開設された
新しい建物で、設備も充実
し、とても快適そうでした
しかしながら、職員の方
の話では、建設に際し、
近所の方より厳しい反対運
動が起こり、理解してもら
うことが大変だったそうで
す。これまで、りっぱな施
設が次々でできれば良いと考
えていましたが、開設する
までにも大変な苦労がある
ことを痛感しました。
また、複合施設の利点で
お年寄りと児童が同じ施設
で生活することはお互いに
(そよかせ T・H・)